

B&RI NewPort Festival  
step.10

# 海の日だから、しまなみクルーズ フェリーで遠足!



問合せ先/特定非営利活動法人 今治シビックプライドセンター  
TEL:080-6382-2619 FAX:0898-34-5696 mail:icpc@major.ocn.ne.jp

主催/特定非営利活動法人 今治シビックプライドセンター 協賛/今治海の月間実行委員会 後援/今治市





## 今治しまなみ海遊体験事業 ～海の日だからしまなみクルーズ フェリーで遠足！～

### 目的

今治市民にとって船は身近なものでした。「物資を運ぶ渡海船」、「島しょ部、中国、九州へ渡るにはフェリー」と市民になくてはならない足として存在していました。

交通の要衝として栄えた今治港も、1999(平成11)年の「瀬戸内しまなみ海道」開通により船便が減少し港の利用が低下しました。現在今治市が進めている、みなと再生プロジェクトにおいて『交通の港から交流のみなとへ』という概念の元、交流のみなとを目指し海からの視点での交流を模索してきました。

新しく出来るみなとが竣工したのち『海の日』を施設のメインのイベントにすることを考え、平成25年度「海の日だからみなとで遊ぼう」平成26年「海の日だからしまなみクルーズフェリーで縁日！」というイベントを開催してきました。現在今治港は工事中で安全なスペースが保てないこともありフェリーを借りてのイベントを開催しました。初めて船に乗る子どもたちも多く船の記憶を楽しい思い出にするべく、甲板にて縁日を開催しました。『海に親しむ』だけではなく『今治らしさ』『今治だから出来ること』『今治じゃなければできないこと』を子ども向けのイベントとして実施することで、地域の海に関する産業への理解、海への興味を育てる機会を提供します。

### 日時

平成27年7月20日(祝・月) 9:30～18:00 (少雨決行・荒天中止)

往路 9:30 今治港発 → 11:30 宮浦港着 (2時間)

復路 16:30 瀬戸港発 → 18:00 今治港着 (1時間30分)



### ルート

今治には海の魅力がいっぱい！

「今治らしさ」とは…今治は海の要衝として発展し、海に関する、橋・歴史・産業といった多くの財産があります。陸の視点で見ると、海の視点で見るとでは子どもたちの関心度も違ってきます。



昭和54年に完成したアーチ橋の大三島橋から平成11年完成の来島海峡大橋。「しまなみ海道」は日本の橋を架ける技術の進歩を間近で感じることができる、世界に誇る橋の博物館です



今治市の船舶建造隻数の国内シェアは19%、そして市内や拠点のある造船会社グループ全体では30%にのぼり、今治には14の造船所があり、国内で建造される3隻に1隻が今治市で作られています。

## 海・船の思い出を楽しいものに

今治港を出航し、造船所群を有する波止浜湾を廻り、しまなみ海道の橋、来島海峡大橋、大三島橋、多々羅大橋の下を通り、宮浦港に到着。主会場となる台(うてな)海水浴場にて環境講座、海水浴等を大人88人、小学生114人、三歳以下5人が参加し行いました。

船に乗る機会が激減した子どもたちにまず船に乗ってもらう。

初めて船に乗る子どもたちに楽しい思い出を提供する。

そして子どもたちに、海・船の体験を通して海・船に興味・関心をもつキッカケづくりを主眼に置きました。

船の中では縁日を展開。船を移動の手段として考えるのではなく、あくまでも舞台として考えました。移動だけで考えれば、高速艇の方が時間も効率的であり経済的です。



波止浜湾を航行し、目前に迫る造船所群を見学



来島海峡大橋をバックに記念写真



車両甲板上で談笑する家族



にぎわうフェリーの車両甲板



来島海峡大橋を撮影する兄弟



車両後部でクイズを考える親子



車両甲板上でかき氷を食べる家族



スーパーボールすくいに夢中になる子供達



車両甲板上にて縁日ポップコーン

しかし効率を追い求める弊害として...

1. 高速艇は海の上を跳ねるように走る⇒子どもたちは船酔いし、船の思い出が残念な結果に。
  2. 高速艇は閉ざされた環境⇒周りの多島美、自然を十分に味わえない。
  3. スピードを上げることにより時間を短縮⇒船の移動の優美さからかけ離れていく。
- 以上のことからフェリーを選択。開放された空間ではゆったりとした親子の会話、対話が行われていました。

### 参加者の声

「子どもとこんなにゆっくり話したのは久しぶりです。」  
 「船(海)からこんなにいろんなものを見たことがなかった。」  
 「初めて子どもが船に乗ったのですが、船が好きになった。」



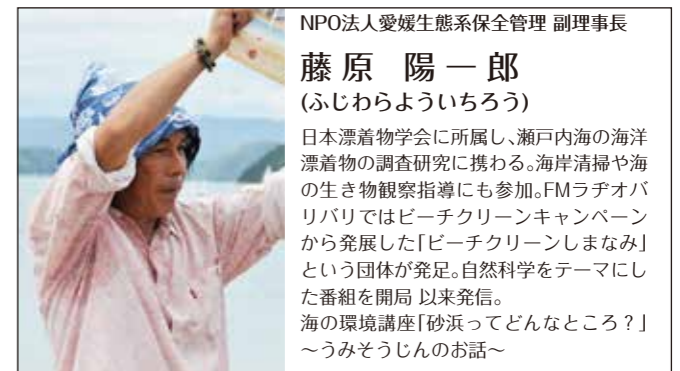
## 子どもに寄り添った“学びを遊ぶ”をデザイン

【教える⇒教わる】という関係性ではない“学びを遊ぶ”をデザイン。環境講座の講師の方との打ち合わせ段階から、子どもに寄り添った形でお話するようお願いしました。講師の藤原陽一郎さんは環境学習の講師として様々な活動を展開。海岸清掃や海の生き物観察指導にも造詣が深く、詰め込み型ではなくキッカケづくりとして事業全体のテーマを、「夏休みの自由研究の課題提供」とすることにしました。



## 海の世界講座

「砂浜ってどんなところ」では、①砂浜にいる危険な生き物／②探してみよう砂浜の忍者たち／③砂浜の植物／④陸からきた種等に分け紹介。面白おかしく話す講師の話術に皆さん引き込まれていきました。また～DASA-9&うみそうじん～のお話は、子どもが創ったキャラクターが活躍する話であり参加した子どもたちにもわかり易く興味を持って話を聞いていました。大人も子どもも興味を持って話を聞いている様子は、今回のアプローチ“学びを遊ぶ”が間違っていないことを確信しました。



NPO法人愛媛生態系保全管理 副理事長  
藤原 陽一郎 (ふじわらよういちろう)  
日本漂着物学会に所属し、瀬戸内海の海洋漂着物の調査研究に携わる。海岸清掃や海の生き物観察指導にも参加。FMラチオバリバリではビーチクリーンキャンペーンから発展した「ビーチクリーンしまなみ」という団体が発足。自然科学をテーマにした番組を開局 以来発信。海の世界講座「砂浜ってどんなところ？」～うみそうじんの話～



## 海の財産クイズ(20問3択)

今治市に関連する造船、船、風土、歴史、環境のクイズを提供。

子どもたちだけで解くのではなく親子で解いてもらえるよう、難易度もちょっと高めに設定。スマホ片手に調べている姿はとても微笑ましく、子どもたちにわからないような問題も設定しました。

平成26年度の全国の開港別貿易総額で今治は何位でしょう。(神戸税関調べ)①19位 ②34位 ③62位  
海の事件・事故の海上保安庁、緊急通報用電話番号は？①117番 ②118番 ③119番  
みんなの知っている「ワンピース」船にはいろんな仕事があります。ではナミの仕事は何でしょう？①船長 ②機関士 ③航海士



フェリーでの縁日にて楽しさを演出し、造船所・橋などの迫力を体感。そしてクイズによる学びを準備。その後海岸にて子どもさんに寄り添った話を展開。“学びを遊ぶ”デザインの成果が子どもだけでなく、大人も含めた能動的な参加という形で表れました。一見普段の生活に関係のない船・海・環境という問題に興味を持ってもらうためには、詰め込み型のアプローチではなく遊びの中にそっと学びを入れることが確認できました。環境講座の後は参加者の皆さん全員で砂浜の掃除を行いました。



講師の話を熱心に聞く参加者の皆さん



講師の先生に砂浜のゴミについて話を聞く子どもたち



砂浜の清掃をする家族



砂浜の清掃をする家族



## 創造性を育てる工作

### ビーチクラフト

砂浜にある、ビーチグラスを使って、アクセサリーを制作。ビーチグラスに穴をあけるだけの行程でアクセサリーを制作しました。チラシを見て、アクセサリーづくりのためだけに参加してくれた子どもさんもいました。用意しておいた紐、キーホルダーはなくなり、穴だけあけて帰る子どもさんもいました。熱心な参加者の方もいらっしゃいましたので、引き続き帰りのフェリーの中でも作っていただきました。



講師の先生に砂浜のゴミについて話を聞く子どもたち



砂浜の清掃をする家族



砂浜の清掃をする家族

### かまぼこ板船

かまぼこ板を使った船作り。子どもさんの創造性を育てるためにあえて見本はおきません。船づくりなのに、箱を作る方もいておもしろい“船”を作っていました。かまぼこ板、釘、かなづち、だけで出来るこの工作はいつ行っても盛況です。ものづくりの原点を見るようです。



## 海で遊ぶことの重要性

### アンケートから聴こえてくる参加者の声

- ①海の危険な生き物について子どもも興味を持っていました。
- ②フェリーに初めて乗ったのですが子どもも大変喜んでいました。
- ③家族全員が楽しめるイベントなので、また来年も参加したい。
- ④まず船に乗ること自体子どもたちにとっては大きなイベントでした。  
橋の下を通ることも、間近で見る波しぶきもとても興味を持ったようです。昨年県外から引っ越してきたので海を近くで触れ合えたことだけで喜びです。
- ⑤海岸にごみがたくさんで驚いた
- ⑥スイカ割りとビーチクラフトが楽しかった
- ⑦フェリーで木の船を創ったこと
- ⑧砂浜に小さなゴミがいくつも落ちていて、発砲スチロールが粉々になったものだと知りました。
- ⑨砂浜にゴミが落ちていて悲しくなりました。



みんなで集合写真！



スタッフ集合写真！



海があり砂浜があり海岸がある今治市なのですが、親子で一緒に海に行く機会は減ったと聞きます。海に行くよりも、プールの方が楽ということがあります。今回スイカ割りを行ったのですが、「初めてやった」という子どもたちも多く『砂浜での当たり前の風景』というものの変化がきています。このように海に対する前提条件が変化する時代の中で、海への理解・興味を増やすにはやはり『遊び』というアプローチが必要になってくるのかと思います。海に接する機会を増やし、これからの海の産業・環境等を担っていく子どもたちに、船に乗る機会、海のことを考える機会を作り海での楽しさを提供することに今後も尽力していきたいと思ひます。



すいかを食べる子どもたち



自分で綿菓子を作ってみる



お土産をもらって帰るご家族